

平成15年度試験研究成果書

区分	普及	題名	東北地域におけるダットンソバの栽培法
[要約] 東北地域におけるダットンソバの播種適期は7月第2～4半旬頃で、播種量は、条播の場合、普通ソバより少ない4～6kg/10a、施肥量は普通ソバ並の基肥窒素量2～4kg/10aで栽培でき、子実収量は20～25kg/a程度が見込める。			
キ-ワ-ド	ダットンソバ	栽培法	東北農業研究所 やませ利用研究室

1 背景とねらい

健康食や機能性食品ブームから、近年普通ソバに比べてルチン含量が高いダットンソバが注目を集めている。しかし、栽培事例が少ないため、その栽培は普通ソバに準じて行なわれているのが現状である。そこで、ダットンソバの東北地域における栽培法を検討した。

2 成果の内容

(1) 播種適期

5月下旬～6月下旬頃の播種では倒伏程度が大きく収量性が低いことから、播種時期は7月第2～4半旬頃とする(図1、2)。

(2) 播種量

畦幅30cmの条播の場合、普通ソバより少ない4～6kg/10aとする(図3)。

(3) 施肥量

基肥窒素量は、普通ソバ並の2～4kg/10aとする(図4)。

(4) 収量性

普通ソバより収量性が高く、子実収量は20～25kg/a程度が見込め、千粒重は18～19gである(図2、3、4)。

3 成果活用上の留意事項

(1) 本試験は、昭和60年頃から軽米町で栽培されている在来系統を供試して検討したものであり、春に堆肥2t/10aを施用した圃場にて試験を行った。

(2) 成熟期は、7月第4半旬頃の播種で10月第2～5半旬頃となる(表1)。

(3) 施肥量が増加すると子実収量は高くなるが、草丈が高くなる場合があるので、倒伏を避けるために地力に応じて施肥量を加減する。

(4) 出芽が普通ソバよりやや遅いが、十分な碎土、整地を行い出芽を揃えれば、普通ソバ同様除草は不要である。

4 成果の活用方法等

(1) 適用地帯または対象者等

東北地域のダットンソバ栽培農家

(2) 期待する活用効果

栽培法が明らかになったことにより収量・品質の向上と新規導入が可能となる。

5 当該事項に係る試験研究課題

(82) 普通作物等の多収良質品種の育成

(3000) そば優良系統の選抜(平成13～15年、県単)

6 参考文献・資料

(1) 平成4～6年度試験成績概要書 岩手県立農業試験場県北分場

(2) そばの栽培技術 平成9年3月 社団法人日本蕎麦協会

7 試験成績の概要

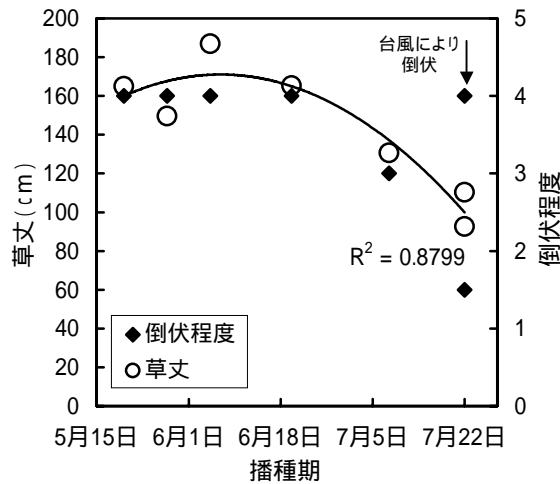


図1．草丈と倒伏程度
(H14～15、播種量6kg/10a)

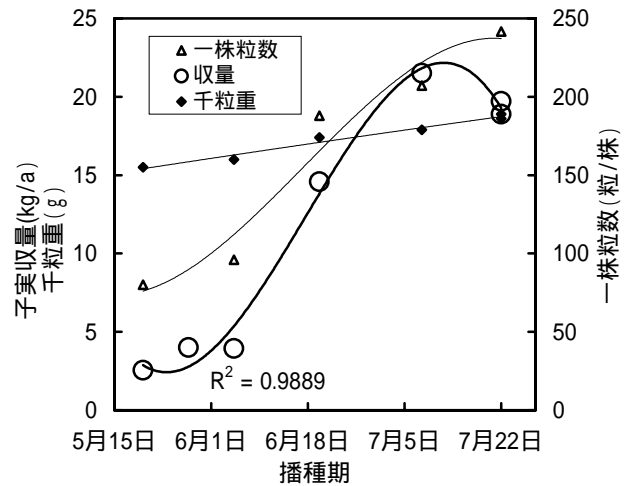


図2．子実収量と一株粒数・千粒重
(H14～15、播種量6kg/10a)
一株粒数は未熟粒を含む。

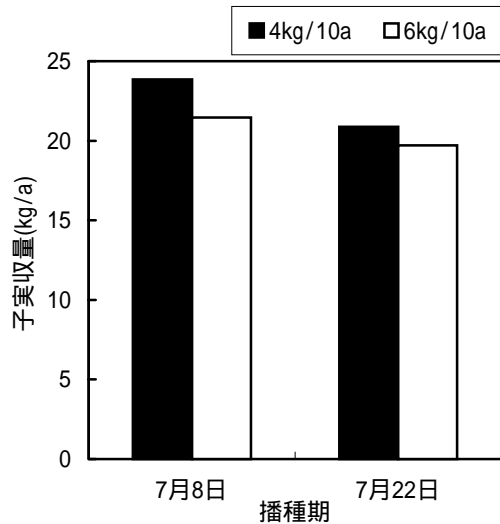


図3．播種量(条播、条間30cm)と子実収量(H15)

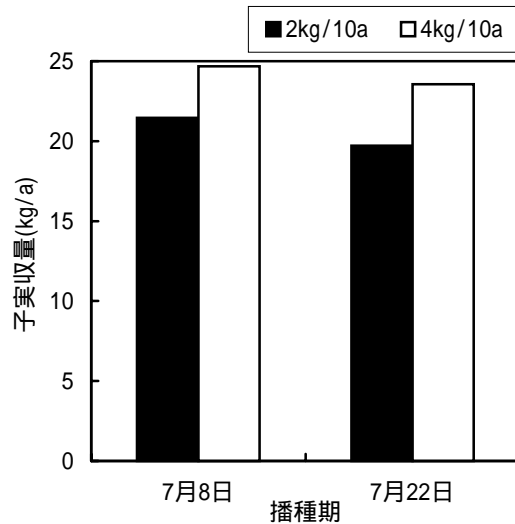


図4．施肥量と子実収量(H15)

両区とも春に厩肥を2t/10a施用している。

表1．播種期の違いによる各生育ステージ(H14～15、播種量6kg/10a)

播種	播種期	開花期	開花最盛期	成熟期
年次	(月日)	(月日)	(月日)	(月日)
H15	5.20	7.8	8.13	9.20
H14	5.28	-	-	8.31
H15	6.5	7.21	8.14	9.20
H15	6.20	7.31	<8.31	9.24
H15	7.8	8.15	<9.15	10.21
H14	7.22	<8.27	9.11	10.9
H15	7.22	<8.31	9.18	10.23

開花期：全株数の40～50%が開花始に達した日

開花最盛期：全株数の40～50%の株で主茎の最先端の花房が開花した日